



2025年3月期 第2四半期(中間期)決算短信(日本基準)(連結)

2024年11月14日

上場会社名 株式会社 NEW ART HOLDINGS
コード番号 7638 URL <https://www.newart-ir.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 白石 幸生
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 神尾 常夫
半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 未定
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-3567-8098

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2024年4月1日～2024年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	11,702	17.6	1,396	4.0	1,169	24.4	434	40.0
2024年3月期中間期	9,948	3.1	1,454	4.0	1,547	3.7	723	21.9

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 349百万円 (37.7%) 2024年3月期中間期 560百万円 (20.1%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	27.79	
2024年3月期中間期	47.11	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	26,643	9,605	33.3
2024年3月期	21,991	8,867	39.4

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 8,868百万円 2024年3月期 8,662百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		0.00		100.00	100.00
2025年3月期		0.00			
2025年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,000	28.0	4,800	67.6	4,800	64.7	2,800	157.8	182.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 7 社 (社名) Wah Full Group Limited他6社、除外 社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期中間期	17,386,204 株	2024年3月期	16,626,375 株
2025年3月期中間期	1,259,360 株	2024年3月期	1,259,328 株
2025年3月期中間期	15,624,462 株	2024年3月期中間期	15,367,544 株

期末自己株式数

期中平均株式数(中間期)

第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては[添付資料] P 4 . 「1 . 経営成績等の概況(4)今後の見通し」をご覧ください

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) キャッシュ・フローの状況	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(会計方針の変更に関する注記)	11
(中間連結貸借対照表に関する注記)	11
(中間連結損益計算書に関する注記)	11
(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
(セグメント情報等の注記)	12
(重要な後発事象)	14

1. 当中間決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間(2024年4月1日～2024年9月30日)は、基幹事業であるブライダルジュエリー事業の利益改善とNEW ARTグループの第2の柱となる食品事業への進出を果たしました。ブライダルジュエリー事業においては、販売会社である株式会社NEW ART(旧株式会社ニューアート・シーマ)が為替変動や物価高等の経済情勢の中でも確実に利益を確保する体制を構築致しました。具体的には、為替変動や物価高を踏まえた適正価格への見直しを4月下旬と、8月中旬に行い、仕入れ、製造面に関しては株式会社NEW ART貴金属総合研究所がダイヤモンドルースや地金の仕入を抜本的に見直し利益の改善を図りました。ブライダルジュエリー事業は受注生産システムを採用していることから当中間連結会計期間に改善した利益改善数値は10月度から計上される形となり、第3四半期以降に関しては安定した売上、利益が確保されるものと見込んでおります。

また、ブライダルジュエリーに次ぐ事業体となる食品事業のWah Full Group LimitedはNEW ARTグループが経営に参画する事で今後日本からの新しい販路開拓と中国大陸への販路拡大も見込んでおります。

当中間連結会計期間におけるグループの業績は、売上高117億2百万円(前年同期比17.6%増)、営業利益13億96百万円(前年同期比4.0%減)、経常利益11億69百万円(前年同期比24.4%減)、親会社株主に帰属する中間純利益4億34百万円(前年同期比40.0%減)となりました。

グループ売上高は前年同期比で17.6%増収となりブライダルジュエリー事業の堅調な業績と子会社化した食品事業の売上を連結した事が要因となります。利益面に関しては、ブライダルジュエリー事業において適正価格への見直しと仕入れ、製造の改善を図りましたが、受注生産システムを採用している事から、当社が想定する利益率は10月度からの計上となり且つグループ子会社の業績回復が遅れていることから当中間連結会計期間は前年同期比では減益となりました。ブライダルジュエリー事業の利益改善策が完了したことで、第3四半期以降は売上を拡大させる事で利益も増加する見通しであります。

当社は、「みんなの夢の企業グループ NEW ARTはアートの持てるすべての力であなたを美と健康と幸せに導きます」という企業理念のもとに、株主の皆様への例年以上の還元策を検討した結果、長期保有を目的とした安定株主としてご支援を賜りたく存じます。既に発表しております通り2024年10月28日開催の取締役会において、会社法第185条の規定に基づき創業30周年記念感謝特別株式無償割当てとして2025年3月31日(月)を基準日とし、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主様の所有する普通株式1株につき、普通株式0.1株の割合にて自己株式を無償で割り当てさせていただきます。尚、2025年3月期末の配当に関しましてはブライダルジュエリー事業の利益改善数値が正確に算出される2025年3月期第3四半期決算発表と同時に発表を予定しております。

各セグメントの業績は、次のとおりであります

(注) 各セグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高または振替高を調整前の金額で記載しております。

①ジュエリー・アート・オークション事業

当中間連結会計期間におけるジュエリー・アート・オークション事業の売上高は97億23百万円(前年同期比8.0%増)、セグメント利益は18億96百万円(前年同期比2.0%減)となりました。ジュエリー事業においては当中間連結会計期間において為替変動、物価高等を踏まえた適正価格への見直しを8月16日に全商品完了致しました。また、NEW ART貴金属総合研究所による抜本的な仕入れ、製造の見直しも並行して実行した事により10月度売上より会社が想定した利益率にて計上されております。価格転嫁による成約率の低下も懸念されましたが経営陣及びトップセールスから各コンシェルジュへの細かなレクチャーにより安定した成約率を保ち、8月度は過去最高の受注額を達成いたしました。また、当社は1994年に銀座中央通りに「銀座ダイヤモンドシライシ銀座本店」をオープンし本年をもって創業30周年を迎え、各ブランドのプロモーションにも一層力を入れております。銀座ダイヤモンドシライシは8年前、名匠・行定勲監督が手掛けたブランドムービーを放映してから7作目となるブランドムービー『This is all』篇を11月からWEB、TVCMなどで公開しております。また、エクセルコ ダイヤモンドにおいてもブランドの再構築としてブランドアンバサダーにモデルや俳優として活躍する後藤久美子さんを迎え、「True Love, True Diamond」をテーマに据えたショートムービーを公開致しました。「銀座ダイヤモンドシライシ」と「エクセルコ ダイヤモンド」、それぞれのブランドが異なったターゲットの顧客層にアプローチすることで、私たちは一層の売上・利益の向上を果たせると確信しています。今後は新たな国内未出店地区への出店を予定しており基幹事業として更なる売上・利益の拡大を図ってまいります。

オークション事業においては定期的な国内オークションの開催と並行して魅力的な出品作品の収集とオークション参加者の拡大を図っております。また、海外では台湾・香港にてオークションを開催してまいります。

②ヘルス&ビューティー事業

当中間連結会計期間におけるヘルス&ビューティー事業の売上高は7億20百万円(前年同期比7.4%減)、セグメント損失は1億92百万円(前期同期はセグメント損失2億40百万円)となりました。

ヘルス&ビューティー事業においては、前連結会計年度に店舗を縮小したことにより売上高は減収となり、利益に関しては赤字幅が縮小して着地致しました。労働集約型産業の課題である人材に関して、既存社員においては業界No1の給与体制になるようベースアップとインセンティブの改定を行い退職防止とリファラル採用などに取り組みました。また、中途採用に関しては早急な人員増を実現できるよう専門家を招聘し最重要課題として取り組んでおります。ヘルス&ビューティー事業としては今後もエステティックだけではなく、人間が健康に美しく生活する為のサポートとして指圧や整体など事業領域を広げた取組も検討しております。

③食品事業

当中間連結会計期間における食品事業の売上高は11億27百万円(前年同期はなし)、セグメント利益は33百万円(前期同期はなし)となりました。

食品事業においては香港を拠点に主に加工された冷凍肉・冷蔵肉や魚介類製品の販売を行っており、販売先としては大手食品小売店及びレストラン、スーパーマーケットが対象となります。当中間連結会計期間の香港飲食業界は消費行動が低調であり、Wah Full Group Limitedが取り扱う主に加工された冷凍肉・冷蔵肉や魚介類製品に関しても発注量が減少する状況となりました。結果として一定のシェアは確保致しましたが当初見込んだ売上・利益を下回る結果となりました。今後は日本からの販路拡大と中国大陸への販路模索などNEW ARTグループ第2の柱として安定的な売上・利益を確保できる体制を構築してまいります。

④その他事業

当中間連結会計期間におけるその他事業の売上高は1億66百万円(前年同期比14.8%減)、セグメント損失は74百万円(前期同期はセグメント損失16百万円)となりました。

スポーツ事業においては、「CRAZY」ブランドで展開しているゴルフクラブの販路拡大と若い女性やシニア層など幅広い客層に訴求できる商品を開発する為、NEW ARTグループ全デザイナーによるコンペを開催し商品開発を進めております。今後は新規開拓した量販店及び既存取引先への卸販売を継続すると共に、新しい顧客層に向けたInstagramによるプロモーションなどを展開してまいります。

軽井沢リゾート開発事業に関してはかねてより当社ホームページでお知らせしている旧軽井沢エリアにおける高級レジデンス事業、『K Forest』が進行しております。加えて、軽井沢エリアに関しては、一層、内外からの不動産投資や観光への需要が高まると想定されており、保有する軽井沢本通りを挟んだ閑静なエリアの大規模戸建て物件(予定販売価格約2,000百万円)、中軽井沢北部にある隈研吾設計『野鳥の森山荘』(予定販売価格約1,600百万円)、中軽井沢エリアの土地(敷地面積 9,466㎡)の開発・分譲・販売についても、更に収益に貢献できるような手法にて検討を進めております。決して一過性ではない安定した需要が軽井沢という高級リゾート地域を高く評価しており、この傾向は現在も続いております。当社としては結果的にこれらの土地がもたらす大きな含み益は、当社の財務基盤を一層強固なものにし今後の軽井沢リゾート開発事業は更なる収益の拡大が見込まれております。

私たちNEW ARTグループは、主力のプライダグジュアリー事業はもちろん、各事業の更なる発展に向けて株主の皆さまと情報を共有しつつ着実に歩んでまいります。今後の展開に、引き続きご期待ください。

当社グループのセグメント別売上は、以下のとおりであります。

セグメントの名称	販売・サービスの名称など	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日) (千円)	前年同期 増減率 (%)	構成比 (%)
ジュエリー・アート・オークション事業	プライダグジュエリーの製造・販売、プライダグ関連サービス、美術品の販売、アートオークションの運営等	9,723,221	8.0	83.1
ヘルス&ビューティー事業	エステティックサロンの運営、化粧品及び健康食品等の製造・販売	685,198	△8.5	5.9
食品事業	加工冷凍肉・加工冷蔵肉の販売 魚介類製品の販売	1,127,202	—	9.6
その他事業	クレジット事業、ゴルフ用品の製造・販売、関連スポーツ用品の開発・製造、ホテル・結婚式場の運営・リゾート開発事業	166,513	△14.9	1.4
	合計	11,702,135	17.6	100.0

(注) セグメント間の取引については相殺消去しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

流動資産は、前連結会計年度末比17億36百万円増加(前連結会計年度末比14.4%増)し、137億80百万円となりました。これは、商品及び製品の増加11億8百万円がありました一方で、現金及び預金の減少2億72百万円などによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末比29億14百万円増加(同29.3%増)し、128億63百万円となりました。これは、建設仮勘定などの有形固定資産の増加16億7百万円、のれんなどの無形固定資産の増加10億20百万円、敷金及び保証金などの投資その他の資産の増加2億86百万円によるものであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末比46億51百万円増加(同21.2%増)し、266億43百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、前連結会計年度末比28億81百万円増加(前連結会計年度末比30.3%増)し、123億85百万円となりました。これは、短期借入金の増加26億24百万円などによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末比10億33百万円増加(同28.5%増)し、46億53百万円となりました。これは、長期借入金の増加9億48百万円がありました一方で、資産除去債務の減少18百万円などによるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末比39億14百万円増加(同29.8%増)し、170億38百万円となりました。

(純資産の部)

純資産は、前連結会計年度末比7億37百万円増加(前連結会計年度末比8.3%増)し、96億5百万円となりました。これは、剰余金の配当15億36百万円及び為替換算調整勘定の減少59百万円がありました一方で、親会社株主に帰属する当中間純利益4億34百万円などによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は33.3%(前連結会計年度末は39.4%)となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、資金という)は、前連結会計年度末に比べ、28億7百万円減少し、13億54百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況と要因は、以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、13億91百万円(前年同期は80百万円の資金の支出)となりました。これは主として、法人税等の支払額7億6百万円、未払金及び未払費用の減少1億84百万円による資金の減少がありました一方で、税金等調整前中間純利益10億89百万円、契約負債の増加4億17百万円による資金の増加などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、23億8百万円(前年同期比12億44百万円増)となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出15億34百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出7億46百万円がありました一方で、敷金及び保証金の回収による収入49百万円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、6億58百万円(前年同期は6億47百万円の支出)となりました。これは主として、配当金の支払額15億30百万円、長期借入金の返済による支出10億50百万円がありました一方で、長期借入れによる収入14億52百万円などによるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績予想につきましては、2024年5月13日公表の業績予想から変更はありません。なお今後、業績予想について変更がある場合は速やかに公表を致します。

業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,713,514	1,441,322
受取手形、売掛金及び契約資産	1,731,212	2,540,506
商品及び製品	6,726,469	7,834,658
仕掛品	53,375	31,746
原材料及び貯蔵品	297,820	321,861
販売用不動産	1,118,021	1,133,953
前払費用	154,121	251,480
その他	371,285	350,127
貸倒引当金	△122,725	△125,564
流動資産合計	12,043,095	13,780,092
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,487,452	2,396,178
機械装置及び運搬具(純額)	7,282	17,068
工具、器具及び備品(純額)	761,463	760,078
土地	4,213,638	4,313,638
リース資産(純額)	226,157	218,684
建設仮勘定	86,226	1,392,413
その他(純額)	-	292,066
有形固定資産合計	7,782,221	9,390,128
無形固定資産		
のれん	237,617	1,266,806
その他	64,277	55,593
無形固定資産合計	301,895	1,322,400
投資その他の資産		
投資有価証券	17,131	17,331
長期貸付金	13,600	11,200
繰延税金資産	293,278	321,058
敷金及び保証金	1,485,399	1,628,232
その他	249,192	367,120
貸倒引当金	△194,220	△194,062
投資その他の資産合計	1,864,381	2,150,879
固定資産合計	9,948,499	12,863,408
資産合計	21,991,594	26,643,500

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	458,652	803,450
短期借入金	3,293,000	5,917,486
1年内返済予定の長期借入金	1,679,729	1,391,745
リース債務	94,376	105,088
未払金及び未払費用	1,009,475	859,282
未払法人税等	713,238	645,289
契約負債	1,923,791	2,337,430
その他	331,940	325,539
流動負債合計	9,504,204	12,385,312
固定負債		
長期借入金	1,987,862	2,936,347
リース債務	68,940	263,205
退職給付に係る負債	240,470	270,363
資産除去債務	650,692	632,151
その他	672,141	551,109
固定負債合計	3,620,106	4,653,176
負債合計	13,124,311	17,038,489
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,617,252	3,301,098
資本剰余金	2,474,276	3,158,122
利益剰余金	5,343,427	4,240,592
自己株式	△1,404,895	△1,404,950
株主資本合計	9,030,060	9,294,863
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	216	354
為替換算調整勘定	△367,539	△426,718
その他の包括利益累計額合計	△367,323	△426,364
非支配株主持分	204,545	736,511
純資産合計	8,867,283	9,605,011
負債純資産合計	21,991,594	26,643,500

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	9,948,012	11,702,135
売上原価	3,325,896	4,421,676
売上総利益	6,622,115	7,280,459
販売費及び一般管理費	5,167,430	5,883,753
営業利益	1,454,685	1,396,706
営業外収益		
受取利息及び配当金	4,313	1,820
為替差益	142,982	-
持分法による投資利益	-	8,376
その他	8,346	3,716
営業外収益合計	155,642	13,912
営業外費用		
支払利息	60,284	108,797
為替差損	-	91,784
支払手数料	30	40,000
その他	2,075	192
営業外費用合計	62,390	240,774
経常利益	1,547,937	1,169,844
特別損失		
減損損失	86,829	3,782
段階取得に係る差損	-	76,246
特別損失合計	86,829	80,029
税金等調整前中間純利益	1,461,108	1,089,815
法人税、住民税及び事業税	596,892	656,017
法人税等調整額	101,420	△6,986
法人税等合計	698,312	649,031
中間純利益	762,795	440,783
非支配株主に帰属する中間純利益	38,865	6,639
親会社株主に帰属する中間純利益	723,930	434,143

(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	762,795	440,783
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△62,506	138
為替換算調整勘定	△139,908	△91,595
その他の包括利益合計	△202,415	△91,457
中間包括利益	560,380	349,326
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	521,515	375,103
非支配株主に係る中間包括利益	38,865	△25,776

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,461,108	1,089,815
減価償却費	188,398	234,941
減損損失	86,829	3,782
のれん償却額	23,245	45,899
貸倒引当金の増減額(△は減少)	3,219	3,242
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△9,413	13,673
受取利息及び受取配当金	△4,313	△1,820
支払利息	60,284	108,797
為替差損益(△は益)	△4,155	4,950
持分法による投資損益(△は益)	-	△8,376
段階取得に係る差損益(△は益)	-	76,246
売上債権の増減額(△は増加)	△171,604	△9,231
棚卸資産の増減額(△は増加)	△557,358	204,665
仕入債務の増減額(△は減少)	100,529	51,959
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	△192,512	△184,844
契約負債の増減額(△は減少)	88,469	417,888
未払又は未収消費税等の増減額	64,351	7,693
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△124,837	57,182
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△231	△14,172
その他	△179,281	92,653
小計	832,727	2,194,946
利息及び配当金の受取額	4,313	1,801
利息の支払額	△55,934	△98,736
法人税等の還付額	316,786	435
法人税等の支払額	△1,178,795	△706,479
営業活動によるキャッシュ・フロー	△80,901	1,391,968
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△18,000	△15,000
有形固定資産の取得による支出	△1,243,578	△1,534,044
無形固定資産の取得による支出	△6,547	△320
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△746,868
長期貸付金の回収による収入	229,600	2,400
敷金及び保証金の差入による支出	△24,192	△56,698
敷金及び保証金の回収による収入	628	49,179
その他	△1,861	△6,831
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,063,952	△2,308,184

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	589,000	1,986,800
長期借入れによる収入	842,414	1,452,200
長期借入金の返済による支出	△387,669	△1,050,554
割賦債務の返済による支出	△118,629	△138,385
リース債務の返済による支出	△41,291	△61,209
自己株式の取得による支出	△1,288	△54
配当金の支払額	△1,529,921	△1,530,098
財務活動によるキャッシュ・フロー	△647,385	658,698
現金及び現金同等物に係る換算差額	26,878	△29,674
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,765,360	△287,192
現金及び現金同等物の期首残高	2,628,237	1,641,513
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	497	-
現金及び現金同等物の中間期末残高	863,373	1,354,321

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年7月31日付で、Master Express Group Limitedから第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当中間連結会計期間において、資本金が683,846千円、資本準備金が683,846千円増加し、当中間連結会計期間末において、資本金が3,301,098千円、資本準備金が3,059,998千円となっております。

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号2022年10月28日)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。なお、これによる中間連結財務諸表への影響はありません。

(中間連結貸借対照表に関する注記)

※ 当社グループにおいては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行12行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
当座貸越極度額の総額	3,163,000千円	3,804,000千円
借入実行残高	3,163,000	3,804,000
差引額	—	—

(中間連結損益計算書に関する注記)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目ならびに金額は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
給与手当	1,048,650千円	1,229,749千円
広告宣伝費	1,378,335	1,401,007
地代家賃	840,086	907,845
支払手数料	528,550	669,784
減価償却費	168,317	216,358
貸倒引当金繰入額	2,182	2,801
退職給付費用	22,468	28,416

(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
現金及び預金勘定	917,373千円	1,441,322千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△54,000	△87,001
現金及び現金同等物	863,373	1,354,321

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジュエリー・ アート・オー クシヨン事業	ヘルス&ビュー ティー事業	その他事業	合計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	8,989,847	747,372	177,346	9,914,566	—	9,914,566
その他の収益(注) 3	13,643	1,523	18,278	33,445	—	33,445
外部顧客への売上高	9,003,491	748,896	195,624	9,948,012	—	9,948,012
セグメント間の内部 売上高又は振替高	433	29,104	—	29,537	△29,537	—
計	9,003,924	778,000	195,624	9,977,549	△29,537	9,948,012
セグメント利益又は 損失(△)	1,935,394	△240,900	△16,286	1,678,207	△223,522	1,454,685

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、全社費用△223,522千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整しております。

3. その他の収益には、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」の範囲に含まれる金融商品に係る取引、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれるリース取引等が含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

ジュエリー・アート・オークシヨン事業において、店舗資産に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては、18,674千円であります。

ヘルス&ビューティー事業において、店舗資産等に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては、68,155千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジュエリー・ アート・オー クション事業	ヘルス&ビュー ティー事業	食品事業	その他事業	合計		
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	9,664,645	684,512	1,127,202	155,687	11,632,047	—	11,632,047
その他の収益(注) 3	58,575	686	—	10,826	70,088	—	70,088
外部顧客への売上高	9,723,221	685,198	1,127,202	166,513	11,702,135	—	11,702,135
セグメント間の内部 売上高又は振替高	465	35,372	—	255	36,093	△36,093	—
計	9,723,686	720,571	1,127,202	166,769	11,738,229	△36,093	11,702,135
セグメント利益又は 損失(△)	1,896,475	△192,910	33,468	△74,559	1,662,474	△265,768	1,396,706

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、全社費用△265,768千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整しております。

3. その他の収益には、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」の範囲に含まれる金融商品に係る取引、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれるリース取引等が含まれております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当中間連結会計期間において、Wah Full Group Limitedの株式を取得し、同社グループを新たに連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「食品事業」のセグメント資産が4,625,126千円増加しております。なお、当該セグメント資産の金額は、当中間連結会計期間末において、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当中間会計期間より、Wah Full Group Limitedの株式を取得したことに伴い、「食品事業」を新たに報告セグメントとして追加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

ジュエリー・アート・オークション事業において、店舗資産に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては、1,656千円であります。

ヘルス&ビューティー事業において、店舗資産等に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては、1,786千円であります。

その他事業において、店舗資産に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては、339千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

食品事業において、当中間連結会計期間よりWah Full Group Limitedの株式を取得し、同社グループを連結子会社にいたしました。当該事象によるのれんの増加額は、1,140,907千円であります。なお、のれんの金額は、当中間連結会計期間末において、取得原価の配分が終了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(重要な後発事象)

(自己株式の無償割当)

当社は、2024年10月28日開催の取締役会において、会社法第185条の規定に基づき、創業30周年記念感謝特別株式無償割当てを実施することについて決議いたしました。

1. 株式無償割当ての目的

当社保有の自己株式を有効に活用し、株主の皆様へ還元するとともに、将来にわたる安定株主を確保することを目的としております。

2. 株式無償割当ての概要

(1) 無償割当ての方法

2025年3月31日(月)を基準日とし、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主様の所有する普通株式1株につき、普通株式0.1株の割合にて自己株式を無償で割り当てます。

(2) 無償割当てにより交付する株式の状況

①無償割当て前の発行済株式数	17,386,204株
②無償割り当てを行わない自己株式の数	1,259,360株
③無償割り当てに際して交付する自己株式の総数	1,612,684株
④無償割当て後の発行済株式数	17,386,204株

(注) 上記は2024年9月30日時点にて記載しており、今後、基準日までに自己株式の取得または処分に伴い、自己株式の数に変動が生じる場合があります

3. 無償割当ての日程

(1) 基準日公告日	2025年3月14日(金) (予定)
(2) 基準日	2025年3月31日(月) (予定)
(3) 効力発生日	2025年4月1日(火) (予定)